

推薦選抜について

10月は推薦選抜準備の時期となります。保護者会や学年集会でも話した内容ですが、**推薦選抜の出願は第一志望であることが原則です**。しっかりと大学を調べ、本当に自分にあっているかどうかを見極めなければなりません。合格してからミスマッチでしたとはいかないのです。**特に指定校推薦の場合は、高校と大学の信頼関係で成り立っている制度**ですので、大学合格後も「大学の顔」となるように努力することが望まれます。

「**学校長が推薦できる生徒**」とは、教科の評定だけが**高い生徒ではありません**。「**挨拶をきちんとできる**」「**掃除を一生懸命にやる**」「**思いやりの心がある**」「**規範意識が高い**」と言った**人間性**の高さも含まれます。総合的に判断して推薦するとは、そのようなことなのです。

会社の人事担当者は、新入社員として次のどちらの人物を採用すると思いますか。

- Aさん：履修科目の成績が優秀
挨拶はしない（できない）
掃除は適当（自分の分担だけ）
- Bさん：履修科目の成績はAさんよりやや劣る
いつでも、どこでも、誰にでも挨拶する
掃除は分担以外でも**気づいて進んで行く**

当然のことですが、Bさんを採用します。Bさんの方が入社後伸びる可能性があり、会社にとって有益になる可能性が高いからです。例えば、自社製品を売り込みたい時、**挨拶は不要でしょうか**。答えはNoです。新製品を開発しなくてはならない時、「**気づき**」がない**人物が開発部門を担当できるでしょうか**。答えはNoです。「**挨拶と掃除**」には、その人の**人間性が一番あらわれる**と言われる所以はそこにあります。やはり最後は「**人としての心**」に尽きるのです。

| 月 | 10月 | |
|----|-----|---|
| 日 | 曜 | 行事予定 |
| 1 | 火 | 衣替え・登校指導 |
| 2 | 水 | 推薦会議第1回申出締切 |
| 3 | 木 | 職員会議① 45 |
| 4 | 金 | 第2回英語検定1次 ベネッセ・駿台記述模試(3年) ベネッセ・駿台記述模試(3年) |
| 5 | 土 | |
| 6 | 日 | |
| 7 | 月 | |
| 8 | 火 | 修学旅行(2年) 小論文講演会 |
| 9 | 水 | |
| 10 | 木 | |
| 11 | 金 | 選足(1・3年) ↓ |
| 12 | 土 | |
| 13 | 日 | スポーツの日 |
| 14 | 月 | |
| 15 | 火 | |
| 16 | 水 | 小論文模試(1年),進路講演会(2年) |
| 17 | 木 | |
| 18 | 金 | 全統記述模試(3年) 推薦会議D回申出締切 全統記述模試(3年) |
| 19 | 土 | |
| 20 | 日 | |
| 21 | 月 | |
| 22 | 火 | |
| 23 | 水 | 学問体験講座(2年) |
| 24 | 木 | |
| 25 | 金 | 職員会議② 40 |
| 26 | 土 | |
| 27 | 日 | |
| 28 | 月 | 芸術鑑賞教室 |
| 29 | 火 | |
| 30 | 水 | |
| 31 | 木 | |

志願理由書とは

入試には志願理由書が求められるスタイルがあります。主に、大学側が面接内容を決定するのに使用されるのですが、**志願理由書に差が出てくる**とすれば次のようなことが分かりやすく書かれているかどうかです。**「志望動機が明確か」「当該大学が将来の職業観と合うのか」「どのように社会貢献するのか」**などです。以下の志願理由書をどう評価しますか。

志願理由書(Cさん)

私は、将来、誰よりも正確な視能訓練技術を身に付けているだけでなく、患者さんの立場に立ち、患者さんが安心して検査を受けられる環境を提供できる視能訓練士になりたいと思っている。自分が理想とする視能訓練士になることで、患者さんを一番近くで支えながら視力回復に力を入れ、生活の幅を広げる手助けができると考えている。また、視機能低下のために生活に不自由を感じる方々が、安心して行動を任せられるような、周りから信頼される同行援護従業者の資格も取得したいとも考えている。

視能訓練士を目指すきっかけとなったのは、通学途中の電車の中での出来事だった。白杖を使用している方が、何か困っているような素振りをしていたにも関わらず、話しかけることさえもできなかった。何もできなかった自分をとても後悔した。その時以来、目の不自由な方々の役に立ちたいと思うようになり、目の治療をする眼科には眼科医以外にどんな人が働いているのかなどを調べる中で、視能訓練士という職種を知った。高校2年時に、盲導犬教室に参加し、盲導犬の数があまりにも少なく、目の不自由な方々が多くの支援を必要としている現状も学んだ。さらに、実際に視能訓練士の方の話を聞く機会があり、その職業に対する認知度の低さや数の少なさを知ることができた。これらの経験から、視能訓練士がいかに必要とされているのかを認識するとともに、視能訓練士への思いも一層強くなった。

オープンキャンパスに参加した際に、「チーム医療・チームケア」を4年間、講義から実習まで実践できるということを知った。患者さんが安心して治療や検査を受けるためには、それぞれの専門分野の方々が協力することが必要であり、私が深く学びたい分野の一つである。授業は徹底した個別指導であり、各分野の専門の先生に丁寧に指導していただけるので、専門的な知識や技術習得に励む上で十分な環境であると感じた。それらに加え、活発な国際交流を行っており、自分の目で世界の医療を見ることができるとともに魅力を感じている。さらに、学生が主体となり取り組むことができるボランティア活動があることも自分に適していると考えている。

貴学に入学したら、専門的な知識や技術を身に付け、視能訓練士と同行援護従業者の資格取得をすることはもちろんだが、他学部・他学科との横断チームで学ぶ「職種間連携」の実践をしっかり行いたいと思っている。日々の授業や実習以外にも、ボランティア活動やサークル活動への参加を通して、コミュニケーション力、協調性、責任感などの人間力を高めながら、自分の理想とする視能訓練士になる夢を貴学で必ず実現させ、社会に貢献したいと強く思っている。

(高校時代から挨拶・清掃を誰よりも励行していたCさんは、大学を主席卒業し活躍中です)